



—炭鉱閉山後の筑豊舞台に—

井筒監督が筑豊で メガホンを取る

筑豊を舞台に映画を製作
そのキッカケは—

炭閉山後の失われた50年を描こう
と考えています。

実際に鞍手町に足を運び
ロケ地のイメージは—

町内の長屋を見て回り、当時の風景をイメージすることができました。また、炭坑の内部を実物大で再現した歴史民俗博物館（石炭資料展示場）の展示には驚かされました。あの狭く薄暗い中で命がけで作業していた人たちの底知れぬ力強さが伝わってきました。

くらて学園（旧鞍手南中学校）は学生時代を描くには最適な場所ではないでしょうか。教室横の広いベランダや屋上など撮影の場所としては最高の環境だと感じました。役場内も見て回りましたが、昭和時代を思わせる良い建物でした。

撮影は今年の10月、11月に行う計画（予定）ですが、鞍手町での撮影が実現できればと思っています。

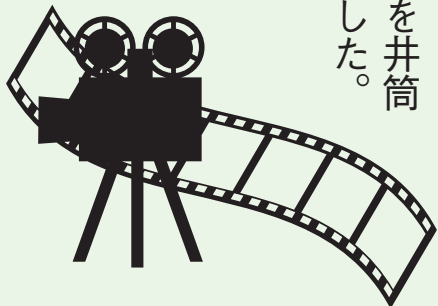


2月29日、映画製作への協力を依頼するため町長を訪問し、ロケ地選定のため町内を巡った井筒監督。映画製作のキッカケとなった「軍鶏S.H.A.M.O.」を山口さんと共に立ち上げた有働徳仁（モンゴル）さん（現鞍手町議会議員）に、映画化のプロジェクトの話があり、この訪問が実現した。

映画「パッチギー」や「岸和田少年愚連隊」など多くのヒット作品を生み出している井筒和幸監督が、炭鉱閉山後の筑豊を舞台に映画を製作するプロジェクトを進めている。

このプロジェクト

にかける思いを井筒監督に聞きました。



映画のテーマは—

やんちゃな息子と母の親子愛を柱に、日本経済を支えた筑豊の炭

「炭鉱の町で育ち、貧しくても愛にあふれ、かけがえのない家族に囲まれ、また生まれ変わってもサビれたこの筑豊に生まれ、そして母ちゃんの子どもに生まれたい」

昨年11月ごろ、軍鶏S.H.A.M.O.（直方市出身の山口吉隆さんがボーカルを務めるバンド）の「彦山川」があったかい瞳のちゃん」を聴いたとき、家族のつながりなど自分が追いかけてきたテーマと重なる部分を感じ、この曲を原案にした映画を製作したいと思いました。

ロケはお祭りみたいなもので、地元（筑豊）で映画を作るのが面白いかなと。